

ようこそ 盈進の読書科へ



読むことは「知る」こと
書くことは「考える」こと

盈進は「平和、ひと、環境」を大切にする中高一貫の学び舎です。豊かな言語力を身につけ、確かな倫理観を養い、きらりと光る独創性に磨きをかけることを目指す「ひとづくり3教科」を学校教育の柱に据えることで、たくましく生きる力を育む教育を展開しています。中でも「読書科」はすべての学力の基盤となる「ことばの力」を培うオリジナル教科として特に中心的な役割を担います。

✧ EISHIN GAKUEN



慶應義塾大学 理工学部
学問D(機械・システム分野)へ進学
[中3時]英検2級/[高3時]英検準1級

船井 一真 (ふない かずま)

2019年度高校3年生
府中市立府中小学校出身

盈進が最も力を入れている「読むこと」「書くこと」への取り組みがどのように「未来を切り拓く」力となったか、今春盈進高校を卒業した船井一真君にインタビューしました。中高6年間の学びを通して何を得たのか、力強く語ってくれました。

◆慶應義塾大学合格おめでとう。いよいよ大学生だね。

——— ありがとうございます。これまで取り組んできた学習が実を結び、最後まで勉強してよかったと思っています。質の高い研究をおこなっている大学で勉強できることに期待感を抱いています。

◆大学ではどんなことを学びたいと思っているのですか。

——— 私は幼い頃から飛行機が好きで、ずっと航空関係の職業に就きたいと考えていました。だから大学受験も航空系の学問が学べる大学を選びました。

◆確かに、中学生の頃にはもうパイロットになりたいという夢が明確にあったよね。

——— はい。実は小学校の高学年からです。学校で課題として出された職業調べに取り組んだのがきっかけでした。盈進中学校に入学してもその夢は変わらず、中学3年生のときの読書の授業で取り組んだ修了論文のテーマもすぐに「飛行機」に決まりました。



中学入学直後の自己紹介



カルタ大会でも大活躍



力強いエイサー姿



創作の授業で陶芸に挑戦

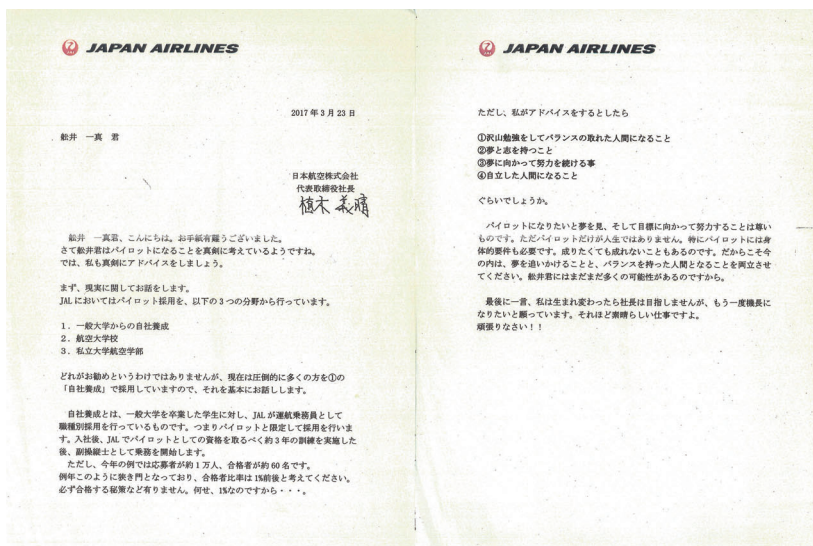
◆読書の授業についてもう少し詳しく教えてください。

読書の授業は中学1年生の時にはクラスみんなで同じ本を読んで、自分の考えを表現したり、話し合いをしたりしました。他の人の意見を聞くと、自分1人では気付かなかった部分に気付かされ、そんな視点もあるのかという新しい発見があつてとても新鮮でした。中学2年生になると、今度は自分たちの住む広島や学習旅行で訪れる沖縄についての本を読んで、世界がさらに広がりました。読書活動がいろんな科目の授業や学年の行事とつながっていて、学びが深まったと思います。

◆中学3年生では？

中学3年生では自分自身でテーマを設定し、それについて調べたことを4000字程度にまとめるという修了論文に取り組むのですが、私はそこで自分の夢とも関わりの深い、「超音速旅客機」について調べました。本やインターネットから自分にとって必要な情報を探し、集めた情報を選別してまとめるのは思った以上に大変でしたが、自分の好きなテーマということもあり一気に書き上げることができました。修了論文では情報を使い分ける力が身についたと思います。また、学年プレゼンテーション大会にも出場し、中学卒業時に優秀論文として表彰して頂いたときはとても嬉しかったです。

それからこの修了論文を書いた後に、読書の授業で憧れの人に手紙を書くという取り組みがありました。その時、私は日本航空(JAL)の植木義晴社長(当時・現在は同社会長)に手紙を書き、なんとお返事を頂くことができました。



日本航空 植木社長(当時)からのお手紙



修了論文優秀賞を受賞

◆手紙をもらったときの気持ちはどうだった？

——— 植木さんはお忙しい方でしょうから、返事は返って来ないだろうと思っていました。だから3月の終わりにお返事を頂いたときは、本当に驚きました。植木さんはこれから私が通う慶應義塾大学から航空大学校を経て日本航空にパイロット(副操縦士)として入社され、その後日本航空初の「機長出身の社長」となられたレジェンドです。手紙にはパイロットへの道筋とアドバイスが記されていました。

◆どんなアドバイスだったの？

——— まず、その年の応募者が約1万人いて、合格者が約60名という狭き門の世界であるという現実、しかし私自身にはまだ多くの可能性があるのだから「夢を追いかけること、そして沢山勉強をしてバランスを持った人間になることを両立するように」というメッセージでした。手紙は「頑張りなさい!!」という力強いことばで結ばれていましたが、これは盈進高校入学直前だった私の背中を強く押してくれるエールのようなものだったと思います。今でも大切に持っています。

◆船井君が常にいろんなことにチャレンジしていた背景には、その「手紙」の存在が大きかったようだね。

——— はい。盈進ではいろんなことに挑戦するチャンスに恵まれました。中学3年生の1学期にEnglish tour in Kyoto(京都外国語大学と連携した2泊3日の多文化交流プログラム)に参加させて頂いたことも心に残っています。当時英語検定準2級を持っていたこともあり、少しは話せるだろうと思って参加した私でしたが、実際に海外の人と話すとなると、相手の話す英語が早くてあまり聞き取れず、自分が話したいこともうまく英語にできませんでした。この体験がとても悔しく、それから奮起して秋には2級を取得しました。

高校生になってもEnglish tour in Kyoto に参加し続け、高校1年生の夏休みにはアメリカ・ロサンゼルス語学研修にも参加しました。学びの機会を頂くたびに英語に力を入れたいと思うようになり、ついに高校3年生では念願の英語検定準1級も取得することができました。

それからクラブ活動は中高6年間サッカー部に所属していました。先輩や後輩と一緒に活動をする中で、サッカーの技術だけではなく、社会に出て必要となる礼儀やマナーを学びました。また、持久走や筋トレなど日々のトレーニングによって忍耐力も身につけることができたように思います。



京都で会話力アップ



ホストファミリーと一緒に



高校パンフレットの表紙に

◆高校生になるとどんな進路意識を持っていたの？

——— 私は高校1年生の頃からある程度行きたい大学を決めて勉強していました。それはパイロットになりたいという夢が変わらずあったからです。しかし、パイロットについて調べていくと視力などの「航空身体検査」が厳しく、なれない場合もあると分かりました。パイロットになれた場合となれなかった場合の両方を想定するようになって、それまでの「夢」の具現化について考えていくようになりました。もちろん今でもパイロットの夢は持ち続けていますが、飛行機の設計・製造という選択肢もあると思っています。

◆受験期はどうでしたか。

——— 難関校と言われる大学の問題はパターン問題や典型題などはあまり出ず、多くの時間と思考力を必要とする問題がよく出ます。そんな応用問題を解くには基本がしっかりしていないと手掛かりもつかめません。だから高校3年生の夏までは基礎固めにこだわりました。秋からはその基礎を問題で活用させ過去問などを解いていました。春には全く歯が立たなかった問題が冬ごろに解けるようになっていきました。やはり基礎の徹底は重要だと思います。また、勉強しながら感じたのは、読解力がないと、どんな教科も学力を伸ばすのは難しいということです。その点から言っても中学生の時期の読書の授業は非常に意味深いものでした。「読む」ことでインプットするだけでなく、論理的に「書く」ということ、そしてそれを発表の形で「伝え」、アウトプットすることで、「思考する」力がついたと思います。

◆後輩たち、そして未来の盈進生にメッセージを！

——— できるだけ本を読んでほしいと思います。本当に自分がなりたいものに近づくための勉強をするときに読解力は必ず必要になるからです。ぜひ読書の時間を活用して下さい。

それから、盈進は様々な地域から集まった仲間とたくさん出会えます。自分とは違う考え方や価値観を持っている人とのつながりを大切にして、部活動に勉強に、充実した6年間を送ってください。私も受験直前には緊張で気が滅入ってしまうことがありましたが、最後まで一緒に勉強を続けた仲間がいてくれたからこそ乗り越えることができました。仲間の力は絶大です！

◆今日はどうもありがとう！

どんどん「夢」に近づいていく船井君をこれからも応援しています！



卒業式にて たくさんの人に支えられた6年間でした



L GE

私たちは今、どんな「未来」にあるのか。昨春盈進高校を卒業して、そして「今」についてメッセージを寄せてもらいました。

盈進で「読む力」「書く力」に磨きをかけた先輩たちは今、どんな「未来」にあるのか。昨春盈進高校を卒業した後藤泉稀さんから、中高6年間を振り返って、そして「今」についてメッセージを寄せてもらいました。

中学2年生で描いた「My Dream」

弁当の日』を読んで、クラス全員が自分でお弁当を作ってくるという授業がありました。それから『14歳からの仕事道』を読んで、自分の憧れの人に手紙を書くというもありました。当時の私の夢は「キャビンアテンダント」から「医師」に変わっていて、沖縄の診療所の先生に手紙を書きました。看護師をしている母の知り合いの女医さんから『風に立つライオン』という本を頂いたことがきっかけでした。こんなふうに私の夢は、「本」との出会いによって少しずつ変化を遂げていったように思います。

●修了論文、そして仲間の姿

中学3年生で取り組む修了論文のテーマは「ボランティア」に決めました。「医療」に興味があった背景には、病気や災害など困難な状況に置かれた人を精神的・物質的に支えるにはどうすればいいのか考えていた自分がいます。修了論文を書くことはもちろん自分の興味関心があるテーマを熟考する大切な機会だったのですが、それ以上に印象的だったのは、周りの仲間たちがそれぞれに興味があるテーマを見つけてそれをすごく楽しそうに調べている姿でした。クラスメイトが意外にも「火山」に強い興味を持っていたり、友達が「童謡」について熱心に調べている姿は今でもよく覚えています。

●高校生になって

高校の3年間はあっという間でした。否が応でも進学を意識しなければならなくなりましたが、新聞記者をされているクラブの先輩への憧れの気持ちが常にありました。その先輩が慶應大学出身ということもあり、早い段階から早慶を意識していたのは事実です。高校1年生の時に初めて早稲田・慶應のキャンパスを見て、その華やかさに魅了されました。そして先輩の影響もあり、自分の夢も「ジャーナリズム」に固まってきました。

●受験期に再び向き合った「書くこと」「考えること」

高校3年生の9月から始めた小論文のスタートは「書けない・ネタない」壁への直面から始まりました。今でもよく覚えているのは慶應の「来年1月1日から人類が鳥のように空を飛べるようになると仮定します。現在の法律および社会通念は人が空を自由に飛ぶことを前提としていないためさまざまな混乱が予想されます。解決策を述べなさい」という問題です。「書くこと」「考えること」に向き合う日々でした。地方に住みながら首都圏の私大を受験するのは大きなハンデがあります。入試問題が手に入らなくて東京にいるクラブの先輩に大学まで足を運んでもらい入試問題を書き写してもらったこともありました。何度も何度も考えて書いて、直してまた書いての繰り返しを続けて、3校目の受験で小論文を書いたときやっと初めて「書けた」という手ごたえの実感が生まれ、合格を頂くことができました。

小論文だけでなく、志望理由書を書いたり面接練習をしたりする中で、本当に自分のやりたいことがこの大学にあって、それが夢にもつながっているんだという実感が湧いてきたような気がします。やはり「書くこと」でだんだん自分が作られていくような感覚を覚えました。私の夢は小中高と変化を遂げていきながら、たくさんの出会いを通して今の「わたし」になっていく、そんな感覚です。

●そして「今」思うこと

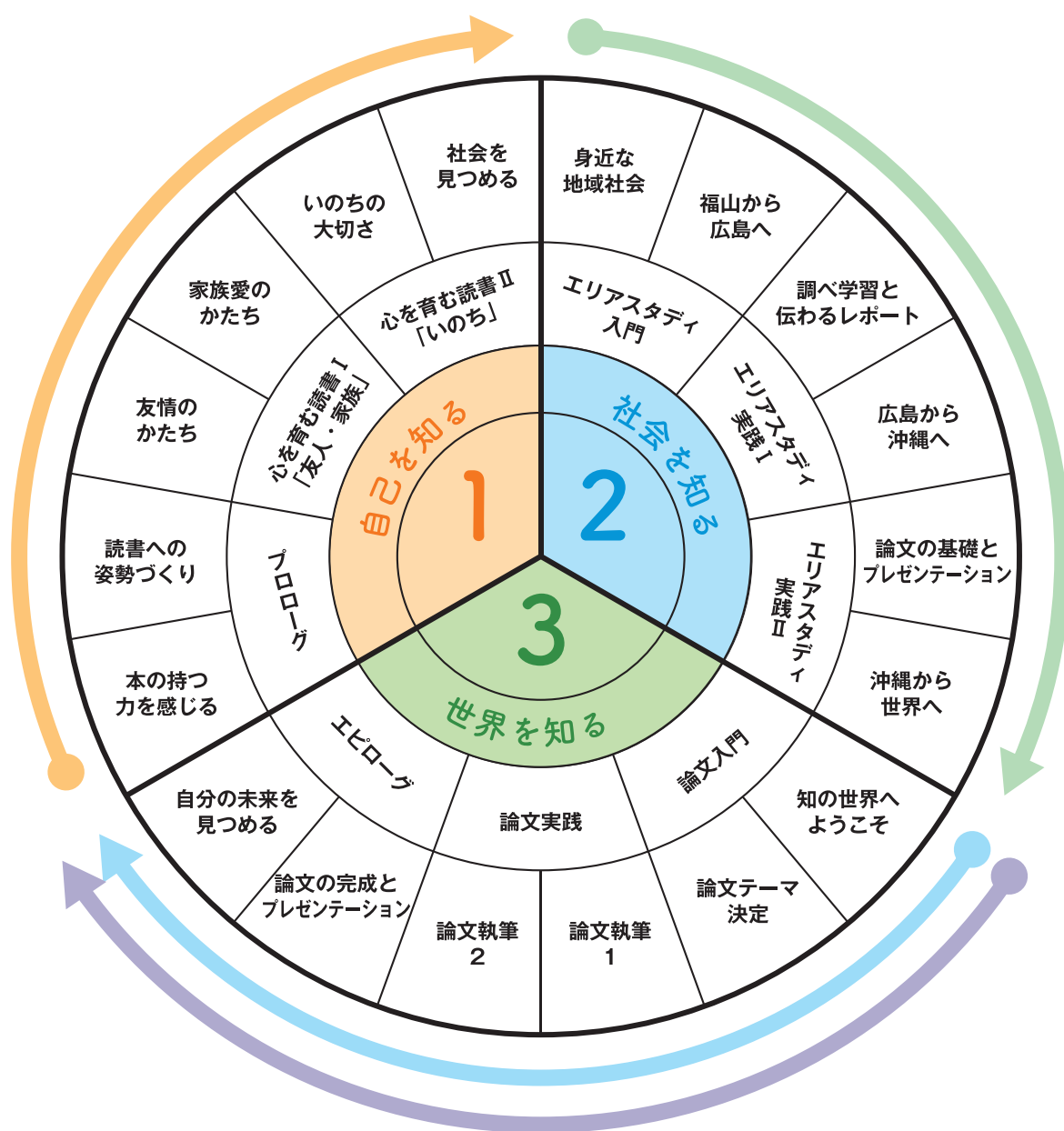
大学入学後、1年時は、法学や政治学・社会学をまんべんなく学んでいました。2年生になった今年からは少人数でより実践的な学習を行うゼミが始まるので、自分の関心はどこに向いているかを見定めています。具体的な中身や立場はまだ模索中ですが、高校時代からの報道に携わりたいという夢は今も変わっていません！やはり盈進で培った力は今、確かに生きています。「書くこと」は大学では学びの土台であり、さまざまな場面で情報を処理し、学びを自分の言葉にする力が求められるからです。また、グループワーク等を通して自分の考えを誰かと共有する機会も増えます。「書く力」「考える力」を「話す力」に上手く転換できるかどうか大事だと実感しています。

私自身も自分の「未来」を追いかけ続けています。みなさんの中にも、将来どんな人になりたいかが決まっている人もそうでない人もいることでしょう。でもそれを発見するきっかけはきっと、みなさんの日常に溢れています。人や本、景色など様々な巡り逢いに気付けるようアンテナを張り、大切な「今」を過ごしてください。

読書科の学び

～本と出会い、ひとを知る～

読書科の授業には各学年に「学びのテーマ」が設けられています。週1回の授業で選定図書を年間10冊以上、3年間で30冊読むことを目標にしています。3年間の読書活動の中で、前半は仲間と本を読む一体感を味わいつつ、お互いの意見を交流することで、心を豊かに育みます。また後半は、私たちが生きる社会について知り、この世界で今起きていることを見つめ、各自が考える課題を解決します。「読み、書き、伝える」活動の中から自分の生き方を見つめる教科です。



読書科3年間の学びのテーマとカリキュラム

1 年生



2 年生



3 年生



1年生のテーマ 自己を知る personal

1年生のテーマは「自己を知る」。家族や友人とのつながりを通して心の成長を遂げる主人公の姿に、自分自身を重ね合わせて読みます。さまざまな愛情のかたち、友情のかたちに触れ「かけがえのない自分」に出会うとともに、自分を取り囲む人の存在にも気づくようになります。心を育みながら本が大好きになる1年間です。



2年生のテーマ 社会を知る local

2年生は「自己」から「社会」へと視点を移し、読書活動の領域を広げます。私たちの故郷「福山」そして「広島」について知り、「平和」というキーワードを学習旅行で訪れる「沖縄」さらに「世界」に結び付けます。「地域研究」×「平和学習」が生み出すドラマチックな読書活動を展開する学年です。



3年生のテーマ 世界を知る national global

「自己」から「社会」へと視野を広げた2年間の学びを経て、3年生ではもっと広い「知の世界」での学びを体験します。自分の興味・関心のある分野からテーマを設定し、4000字以上の文章をまとめた修了論文は中学校3年間の読書活動の集大成となります。

修了論文

～書くことは考えること～

読書科の授業では「自己」⇒「社会」⇒「世界」と視野を広げていき、中学修了時には再び「自己」へと回帰するサイクルの読書活動を通じて「未来を見つめる15歳」の育成を目指しています。中学3年生では、興味・関心に基づいたテーマを自ら設定し、4000字以上の本格的な論文に挑戦。専門的な本を読み、自ら調べ、担当の先生の指導を受けながら半年以上かけて論文を書き上げます。主体的な学びを通して思考力を鍛えることで「21世紀型能力」の礎を築くとともに、自分のやりたいこと、なりたい姿を思い描くことができます。

2019 年度修了論文テーマ例

- 「スポーツで左利きは有利なのか」
- 「筆記用具と学力の関係性」
- 「コーヒーから広がる世界」
- 「ドクターヘリの普及の現状」
- 「AI から見る読書生活」
- 「粉体のメリットとその将来性」

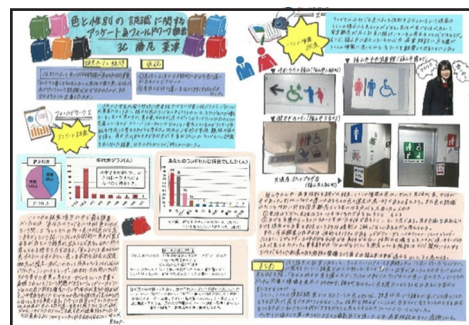


この修了論文の執筆の際には、夏休み期間中に自分で考えたフィールドワークをおこなうことになっています。自分の調べたい内容についてより高度な知識を持つ専門家や、文化的・技術的な関連性の見られる企業などを訪問したり、手紙やメール等でのやりとりをしたり…手法はさまざまですが、自分の研究を深めるために「ひと」にアプローチします。

もちろん本はそれを読むことで楽しみをもたらしてくれるのですが、本から一歩飛び出して、現実社会とのつながりが生まれ、そこに「ひと」との出会いが生まれると、より豊かな喜びを生み出してくれるものです。

「読書科」の目指す学びの完成形は、今その価値が注目されている「探究」的学びだと言うことができます。

なお、修了論文を書き終えた中学3年生は中学2年生に向けて全員がプレゼンテーションをおこないます。先輩から後輩に引き継がれる伝統の行事です。



〔上：フィールドワーク報告書
下：プレゼンテーションの様子〕



2019 年度 盈進中学校『修了論文』優秀作品集もあわせてご覧下さい。



カルビー(株)の会長兼CEOの
松本晃さんがポテトチップスを
たくさん持って来校して下さいました!

世界のTOYOTA
トヨタ自動車のプリウス開発者
豊島浩三さんが来校!

盈進中学校は
1人1台のタブレット!
読書科の授業でも
ICTを活用します。

広島のお好み焼きの歴史を学び、
レポート作成。学びのまとめは
広島お好み焼き広場にて

私たちの街「福山」再発見。
「盈進坂の桜」が
「福の山百選」リストに
ありました!

広島を舞台にした作品
「赤ヘル1975」を読んで、
全国の図書館に「読書郵便」
という形でPR活動を展開。
全国からたくさんのお返事を頂き感動!

読書科プレゼンツ
『ハブレトルハブレトランをめぐる旅』
～松永・尾道FW～
物語の舞台を実際に歩きました

中学校の生徒と教員で取り組んだ
300冊の「E♥絵本プロジェクト」。
新図書館にある絵本をオススメする冊子を作りました。
盈進に来て下さった作家の落合恵子さんにプレゼント!
本を通じて、たくさんのお会いが生まれます。

EISHIN DREAM PROJECT

盈進の建学の精神は「実学の体得」。社会
に貢献できる人が持つ本当のにんげん力
を身に付けるために「読書科」が創設され、
四半世紀を経ました。そこで、こうした
教育理念を大切にしつつ、「読書科」が主
体となって「未来を見つめる 15 歳」を
育成するため、「ドリームプロジェクト」
を立ち上げました。

「ドリームプロジェクト」では、生徒たち
の読書活動をさらに充実させるため、読
書科行事や講演会を企画、また読書環境
の整備をおこないます。生徒たちの夢の
実現を後押しする、盈進の「読書科」。ワ
クワク・ドキドキがいっぱい詰まった学
びを一緒に体験しませんか?

「読む・書く・伝える」力で夢の実現へ



(駆けつけてくれた先輩たちに囲まれて)

「読書科」の授業では福山市主催「夢・未来プロジェクト」に挑戦しています。これは福山市が中学生の夢へのチャレンジを支援するもので、2017年度の酒見知花さん(福山市立湯田小学校出身)、2018年度の小林葉依さん(福山市立網引小学校出身)に続いて、2019年度は木村華さん(福山市立日吉台小学校出身)が選ばれました。書類選考ならびにプレゼンテーションの「読む・書く・伝える」力で掴んだ夢へのチャンス。読書科の学びは夢の実現への第1歩です。

木村華さんの夢へのチャレンジ!

夢・未来プロジェクト2019の支援対象となった盈進中学校2年の木村華さん。夢は「水泳の県大会で1位になって中国大会に行きたい!」。夢の実現のためにチャレンジしたいことは「世界で活躍している・していた選手に会って直接泳ぎを教わりたい!」

0歳の頃から水泳を始め、県大会3位などの成績を持つ木村さん。スランプに陥り、水泳を嫌いになりかけたこともありましたが、お母さんからの言葉がきっかけで、また水泳と向き合えるようになったとのこと。

8月に行われたプレゼン大会ではそんな葛藤を乗り越えた今だからこそ「水泳は自分にとってなくてはならない存在です」と水泳への熱い情熱を語り、審査の結果支援対象として決定しました!

木村さんの夢へのチャレンジを支援してくれたのは、なんとリオデジャネイロオリンピック 平泳ぎ女子200mで金メダルを獲得された、金藤理絵さんです!2016年に金藤さんによって更新された日本記録は、未だに破られていません。

金藤さんから水中姿勢の基礎や飛び込みの動作、また平泳ぎなどの一流技術をご指導いただきました。最後には木村さんが所属するチームの仲間達を含めた、金藤さんとの交流会を行い、「目標を達成するために心掛けること」などのお話をいただきました。

体験した中学生からは、「オリンピック200mの平泳ぎで金メダルを獲った金藤さんに教えてもらえたのは、本当に夢のようで一生忘れられない思い出になりました。特に心に残っているのは、ひとつの事に熱心に、そして分かるまで教えてくださったことです。特に平泳ぎを教えてもらったのですが、普段の練習でも出来るようなやり方を教えてくれました。金藤さんに出会えて、そして指導を受けて本当に良かったです。マンツーマンで私の出来ないところを教えてくれる機会はもうないと思います。だからこそこれを機に自分を奮い立たせてもう一度水泳と向き合いたいと思います!」などの感想がありました。

この経験を活かして、夢に向かって頑張ってくださいね!

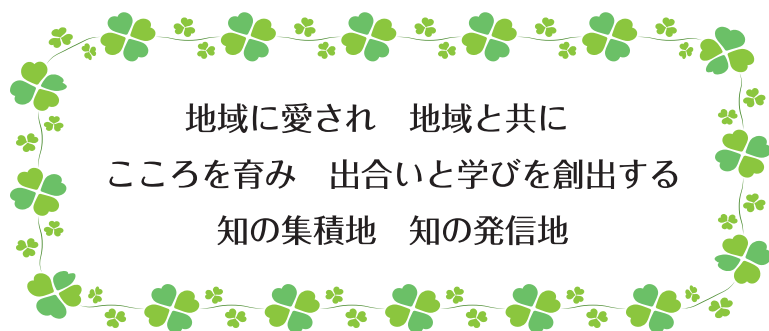
(福山市HPより抜粋)



金藤さんから夢の競泳指導
盈進中2年木村さん
福山市の盈進中2年木村華さん(14)は南蔵王町に29日、リオデジャネイロ五輪競泳女子200m平泳ぎ金メダリストで庄原市出身の金藤理絵さん(31)から第一線の競泳選手に欠かせない技を学んだ。中学生の夢の実現を支える市の「夢・未来プロジェクト」の一環。松永健康スポーツセンター(松永町)で約90分、マンツーマンの指導を受けた。金藤さんは実演を受けながら、水中での姿勢や手足の動き方、飛び込み、タインのこつを細かく伝授。「キックの勢いでより先の水をキャッチし、手先は徐々に広げて」などと助言した。

木村さんは昨年8月のプレゼン大会で平泳ぎでの目標を発表し、応募561人の中から夢実現の支援を受ける4人に選ばれた。夏の中国中学校水泳競技選手権の出場が目標。「夢のような時間。苦手な部分を克服し、金藤さんのような心の強い選手を目指す」と意気込んだ。

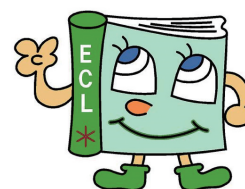
金藤さん(左)の平泳ぎの指導に聞き入る木村さん



昨年、盈進中学高等学校は新校舎での学びをスタートしました。その「顔」とも言えるエントランスには、従来の約3倍の大きさの新図書館が位置づけられています。新しい本も6000冊加わり、「知の集積地・発信地」として、さまざまな場面で盈進生の学力のベースを育む読書活動を支えます。また、新図書館の建築には、伝統の「読書科」の学びを生かした工夫が施されています。あわせて生徒には1人1台のタブレットICT環境が整い、この新図書館を中心とした探究活動がさらにパワーアップ！



新図書館には盈進に通う生徒・保護者、そして将来的には地域に開けた出会いの場となるように、「みどりのECL」という親しみやすい愛称がつけました。「いーくる」という呼び名は「Eishin Community Library」の略語であり、「盈進に『来る』」という掛詞にもなっています。あわせて図書館オリジナルのマスコットキャラクター「盈図（えいと）くん」も誕生し、図書館で行われるさまざまなイベントに登場します。愛称・キャラクター名・デザインともにすべて校内の生徒による発案です。これは、「みどりのECL」の主役は生徒1人ひとりであり、生徒たちの手によってこの図書館が作られていくことを意味しています。





生徒たちの手でつくる図書館



図書館夢会議…この図書館でどんな夢が描ける？



新図書館を舞台に「夢のある」企画が実現できないかと立ち上げられたのが「図書館プロジェクト」です。中高生30名以上の生徒たちによって「夢の図書館」づくりが始まりました！



イベント企画…本棚&POP作り
クリスマスツリーも飾って盛り上がりました



図書館に音楽を流そう！
初めての試みに
ワクワク！



図書館プロジェクトによる中学校集会！



読書カードスタート！…いっぱい読んでポイントをもらおう！



図書館に「小さなお客様」をお招き



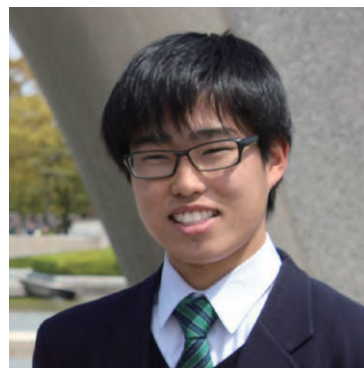
読み聞かせの技術を磨いて「小さなお客様」をおもてなし！

私の盈進読書科

～卒業生の声～

「他者と共に生きる」 社会の実現をめざす土台に

私が印象に残っている一冊は、中学1年生で読んだ佐野洋子さんの『100万回生きたねこ』です。中学の授業の教材として、絵本を使うのは斬新で、刺激的で、とても「楽しい」時間でした。あまり身近ではない「死」というテーマに対して、絵本で、仲間と一緒に考えることができたのは自分にとって貴重な機会でした。高校3年になった今振り返ると、あの「楽しい」は、短い単純な話の中に隠されているメッセージをみんなで探し、掘んでいく過程が楽しかったのだと思います。仲間と感想を共有することで、人によって受け取り方が違うということも強く感じています。特にこの本は内容が深いため、読み手の感じ方の差も大きかったのが印象に残っています。このように仲間と感想の共有ができるのも、読書科の授業の強みだと思います。



2018年度 高校3年生

池田 風雅

(府中市立府中小学校出身)
広島大学 総合科学部へ進学
高1次 英検2級

「書くこと」は、「話す」 「伝える」力に

私は中学1年生で読んだ「一房の葡萄」がとても印象に残っています。友人の「絵の具」が羨ましくて、それを衝動的に盗んだ主人公が、仲間や先生とともに自分の行為と向き合う話です。私はこの本を通して、日頃仲間とどう接し、人としてどう行動すべきなのかを学びました。読書科は、多彩な本と出会うことで、自分を鍛え、他者と向き合い、社会を見つめる時間です。授業では本の感想文を書き、仲間とシェアリングしますが、他者の感性に触れる大切な機会です。そして、文書を書くことは、自分の考えを整理し、最適な言葉で落とし込む練習なので、確実に「話す能力」も向上します。中3次の修了論文も、盈進で鍛えた読書力を活かし、諦めず取り組みました。読書科で、自己の可能性を無限に広げましょう。



2018年度 高校3年生

高橋 悠太

(福山市立御幸小学校出身)
慶應義塾大学 法学部へ進学
高3次 英検準1級

～1年間読書の授業を受けた在校生の「声」～

盈進に入学すると「読書」という授業があって、とても驚きました。私はこれまで朝の読書以外でほとんど本を読むことがなかったので、最初は正直本に興味がありませんでした。しかし、読書の授業が始まってからは、いろいろな本に出会うことができました。1冊1冊の本に、それぞれの魅力があり、読んでいて楽しいと思える時間でした。本の紹介をしたり、いろいろなプロジェクトがあったりして、想像力がふくらみました。もっと図書館に通って、本が大好きになりたいと思うようにもなりました。これからも読書の授業でたくさんの本に出会いたいです。他の学校にはない授業を受けることができて嬉しいです。

中学2年生

稲葉 心美

(福山市立蔵王小学校出身)



「読書」の授業で読んだ『ハブテトルハブテトラン』(中島京子作)は、私が今まで読んだ本の中でTOP3に入る本で、何かに引きつけられている感覚になった本です。読書の授業は本を読む力をつけることによって、本のおもしろさに気付くことができる授業でした。今の時代、スマホやタブレットもいいけれど、本のおもしろさは本にしかないと思います。

また、本を読んで疑問を抱いたり、考えを深め合ったりするのも読書の授業の魅力です。1人で考えて誰とも意見を交わさなければ面白くないけれど、みんなで同じ本を読んで、みんなで考えを深め合う活動はとても楽しかったです。

中学2年生

藤本 伊織

(福山市立竹尋小学校出身)



私はもしこの「読書」の授業に出会っていなかったら、本が面白いものだと思えることがなかったと思っています。私はもともと本が苦手で自分から進んで本を手取ることはありませんでした。でも読書の授業で本の楽しさを教えてもらったので、自分の好きな本を見つけて読んでみようと思えるようになりました。

「読書の授業はなんのためにある？」——1年間の授業の最後に先生が投げかけられました。きっとたくさんの答えがあるとは思いますが、私自身も1つ答えを見つけました。それは、「どんな本があるのかを知ること、自分が本当に好きな本、自分にとって本当に必要な本を見つけるためなのではないか」です。

中学2年生

神野 梨花

(義務教育学校府中学園出身)



私たちが本を読む理由は、本の中で出会う物語や、本の中に出てくることばが、いつか大切になる日がくるからではないかと思っています。人と話したり、テレビを見たりしても分からなかった発見が、本にはあると思います。やっぱり本を読むといろいろなことを考えるものです。私自身、本を読んでいるときに、その物語の登場人物たちの感情はどういう感じなんだろう？筆者はこの場面をどんな思いで書いているのだろう？と考えることがあります。でも、それはきっと本を読まないとは分からないし、知ることもできないことだと思います。

これからももっと本を読んで、たくさんの物語に出会っていきたいです。

中学2年生

西松 希乃香

(福山市立加茂小学校出身)





盈進中学校の読書科で
培った「読む力」「書く力」を
発揮し、生徒たちはいろん
な「伝え方」で自己表現をし
ます。ここでは2019年度に
生徒がチャレンジした作品
の一部をご紹介します！

(9) 説書 2020年(令和2年)4月12日(日曜日) 中

人間というものは、思い
もよらない一面を持ち合
わせたものである。
この本の登場人物もそう
だ。不良でやる気ゼロの大
田はあふれんばかりの闘志
と研ぎ澄まされた感受性を
備えた人物だった。クール
で誰に衣着せぬ物言いの渡
部は、優しくて他者の心の
機微に敏感だった。
意外な一面を持った人間
は僕の周りにいる。いつ
も強がって弱みを見せない
その友達も僕だけに弱い部
分を見せてくれる。彼のか
なり強めなマイナス思考は
僕を驚かせたものだ。
さてこの物語は、ある中
学校の陸上部が中学最後の

仲間受け止め高め合う

あと少し、もう少し
山田 海翔 (盈進中2年)

瀬尾まいこ著
(新潮文庫)

青春文学館

人間関係はきつと立ちゆか
なくなるだろう。さらにそ
の人の知らず知らずのう
ちに傷つけてしまうことがあ
るかもしれない。
物語の中の陸上部はチー
ム一丸となって闘い、県大
会出場を果たした。「あと
少し、もう少し」というタ
イトルには同じ陸上部の仲
間と少しでも長く走りた
いという彼らの思いが込めら
れている。
僕はこれからも出会う人
を見た目や話し方だけで判
断せず、その人の本質を見
極めて人間関係を築いてい
きたい。この本には、本当
の仲間作りをするためのヒ
ントがあると思った。

中国新聞 読書 青春文学館
二〇二〇年四月十二日 日曜日
山田 海翔(福山市立湯田小学校出身)

第18回 木下夕爾賞 中学生の部 優秀 角本 温紀(福山市立湯田小学校出身)

「あり」

角本 温紀

ある日、散歩をしていると
あき地でありの大群を見つけた
なにをしているのかなと見ていると
近くの木にとまっていたせみが
ポロリと落ちた
ありはそれをまっていたかのように
せみのほうに群らがっていった
最初は
足をピクピク動かしていたせみも
ついには動かなくなつた
一匹のありが本、せみの足を
巣にもつていった
すると他のありがせみの羽の部
巣にもつていった
さらに他のありがせみの体の一部を
巣にもつていった
悲しくも、むなくもなかった
ただ怖かった
それだけだった
幼きころの夏の思い出だった

読むことは「知る」こと 書くことは「考える」こと

Reading is knowing Writing is thinking



本の力 × 子どもたちの力 = ∞

本には力があります。

それは本の扉を開くときの子どもたちの目の輝きで分かります。

子どもたちには力があります。

すてきな本を読めばそこからたっぷりの栄養をぐんぐん吸収します。

本の力 × 子どもたちの力 = ∞

読書科の授業は、本の力と子どもたちの力が共鳴する時間です。

1992年に再開された盈進中学校はその特色教育の1つに「読書科」を
かけ今年で29年目となりました。

本と出会い、人を知る ―― 本を選びとる力は人と出会う力であり、
それは自らの夢を思い描く力です。

わたしたちは「読書科」の学びを通して、生徒1人ひとりの夢を応援しています。

盈進中学校 読書科



「あなたが あなたで あること」

The important thing about you is that you are you.

It is true that you were a baby, and you grew and now you are a child,

And you will grow, into a man, or into a woman.

But the important thing about you is that you are you.

(Margaret Wise Brown "The Important Book")

表紙絵：2020年度中学2年生／三好音奈

裏表紙：盈進中学校読書科／はじまりの1冊

マーガレット・W・ブラウン『たいせつなこと』